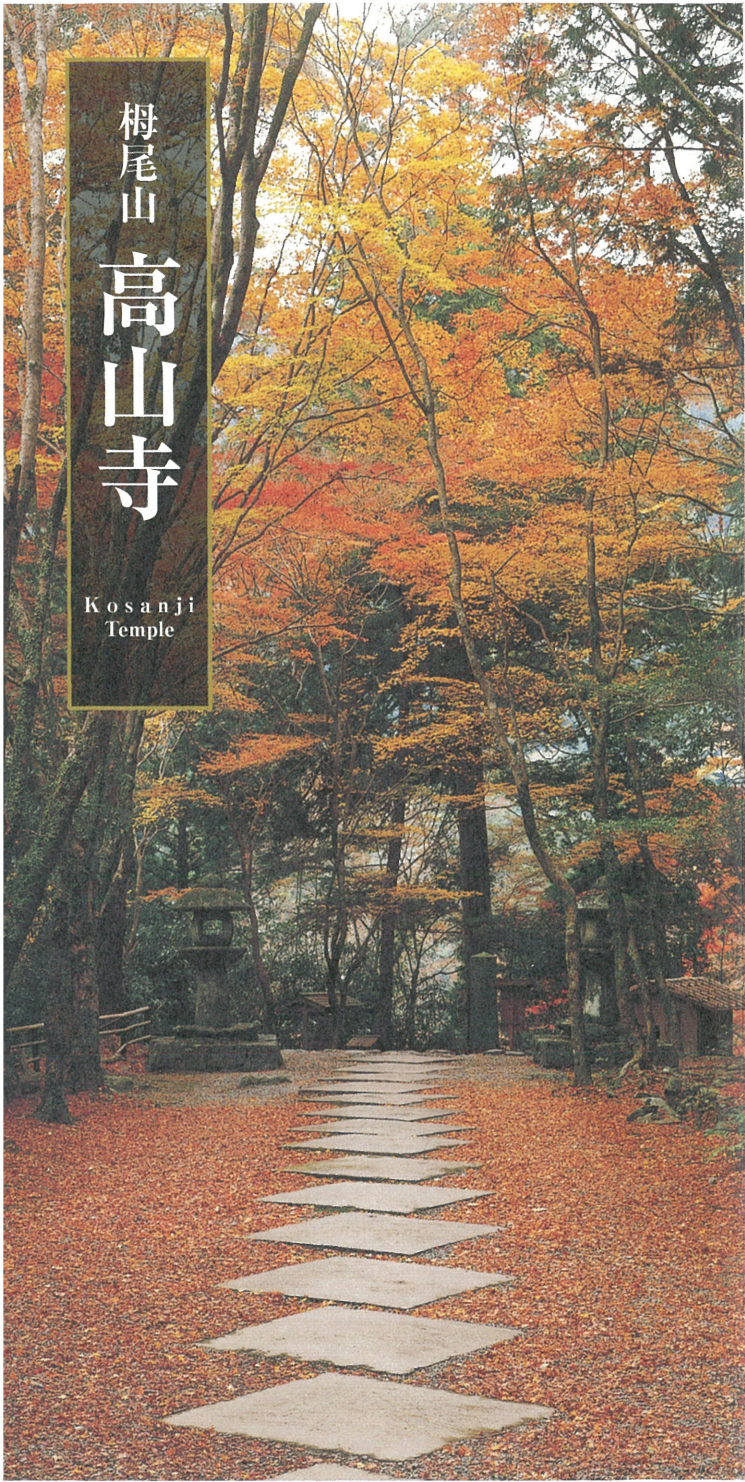
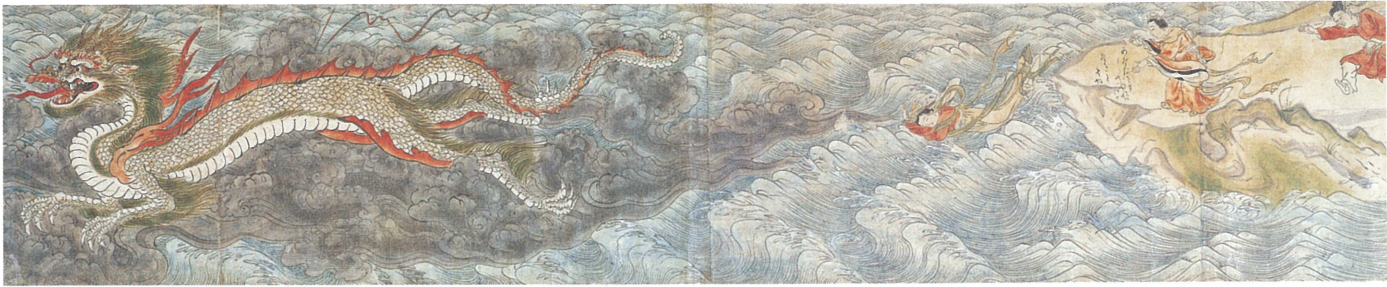




梶尾山  
高山寺  
Kosanji Temple



華嚴宗祖師絵伝（国宝・鎌倉時代）  
義湘・元曉は新羅華嚴宗の祖師である。鎌倉時代初期の絵巻を代表し、高僧伝絵の最初期を飾る優品。

夢記（重文・鎌倉時代）

明恵上人自筆の夢の記録。上人はしばしば夢中で靈感を受けた。夢を克明に記録してその中に潜んでいる自分の宗教的な意識を考え続け、約四十年の間、夢を記録している。現在その約半数が現存する。



「日出先照高山之寺」額（鎌倉時代）

石水院に掲げられる後鳥羽上皇宸翰の勅額。高山寺と称される所以である。高山とは華嚴の教えを喩える言葉であり、すなわち華嚴の教えの寺の意である。ここ梶尾の地を与えた後鳥羽上皇が、華嚴教の奥義を極めていた明恵上人に華嚴宗の興隆と発展を期したものである。



子犬（重文・鎌倉時代）

明恵上人が常日ごろ愛玩していたもので、仏師湛慶の作とされる。



その他代表的な宝物（いずれも重文）  
彫刻 薬師如来坐像、白光神像、善妙神像、神鹿一對、狛犬三対  
絵画 文殊菩薩像、明恵上人像、華嚴海会諸聖衆図、五聖曼荼羅図  
書跡 大唐天竺里程書、入解脱門義、華嚴信種義  
工芸品 阿字螺鈿蒔絵月輪形厨子、輪宝羯磨蒔絵舍利厨子

## 高山寺略記

京都の西郊に位置する高たか雄・横よこ尾・梅うめ尾は三尾と呼ばれ、古来より紅葉の名勝として、また四季折々の美しさを育む地として知られてきた。高山寺はその梅尾にある古刹である。

創建は、寺伝によると奈良時代末の宝亀五年(七七四)に光仁天皇の勅願によって開かれ「神願寺都賀尾坊」と称したと伝わる。

「高山寺」の寺号は、鎌倉時代はじめの建永元年(一二〇六)に明恵上人が後鳥羽上皇よりこの地を与えられ「日出先照高山之寺」の勅額を賜ったときからである。

高山寺中興開祖である明恵上人は、華嚴宗興隆を実践し、その徳行は皇族・公卿・武士など多くの人々の信仰を集めた。そして「鳥獣人物戯画絵巻」に代表される数多くの文化財が高山寺に集積されていたのである。

また、明恵上人は、臨済宗開祖の明菴栄西から、宋より持ち帰った茶の種を贈られ、日本で初めて茶を栽培した。そのことから、高山寺は「茶の発祥の地」とされている。

平成六年(一九九四)には「古都京都の文化財」として世界文化遺産に登録された。



## 明恵上人

明恵上人高たか弁は、承安三年(一一七三)に今の和歌山県有田郡の平家一門の武家に生まれたが、幼少期に父母を亡くし、神護寺に稚児僧として入った。その後は東大寺にて受戒し、華嚴学復興の気運に乗って奥義を極めるが、限られた宗派や教説にとらわれることなく、ひたすら釈迦牟尼世尊に随順してその教えのままに生き、真の仏弟子として生涯を貫いた。世俗面においても、北条泰時に政治の肝要として無欲を説き、承久の乱における公家方未亡人に「善妙尼寺」を造って教化救済した。

上人の遺訓に「阿留あろ辺へん幾いく夜や宇う和わ」の七文字がある。「人は阿留辺幾夜宇和の七文字を持つべきなり。僧は僧のあるべき様、俗は俗のあるべき様なり。乃至帝王は帝王のあるべき様、臣下は臣下のあるべき様なり。此あるべき様を背く故に一切患しきなり。」と説く。この遺訓は現代人にとっても人間日常の簡短にして深奥なる教えである。



明恵上人坐像 (重文・鎌倉時代)

開山堂に安置される等身の木像である。黒衣に袈裟を掛け、念珠を両手にとって座する姿は、上人の相貌をよく伝える。上人寂後も弟子たちが永く給仕し続けたのがこの本像である。

仏眼仏母像 (国宝・鎌倉時代)

仏眼仏母は、三世諸仏能生の母とされる。賛に「无耳法師之母御前也」とあるように、幼少期に父母を亡くした明恵上人は、生涯に渡り釈迦を父、仏眼仏母を母と慕った。そして求法の決意のためこの像の前で自ら右耳を切り落とす。「无耳法師」とはそのことである。



明恵上人樹上坐禅像 (国宝・鎌倉時代)

明恵上人は、晩年の十年間をほとんど高山寺裏山の楞伽山中で過ごし、その草庵や坐禅所の址が今も残る。縄床樹と名付けたこの赤松の坐禅所を好み、深い自然の中に没入していたようである。上人の弟子である恵日房成忍が描いた。



石水院 (国宝・鎌倉時代)

明恵上人が後鳥羽上皇より学問所として賜った建物で、上人